

幕末から続く農村歌舞伎を 住民参加で運営、継承

—伝統文化の継承機能—

ひとやまのうそんかぶき

肥土山農村歌舞伎保存会



肥土山農村歌舞伎

香川県の無形民俗文化財である肥土山農村歌舞伎は、貞享3年（1686年）に、水不足で苦しんでいた農家を救おうと、庄屋が自費を投じてかんがい用のため池「蛙子池」をつくり、完成後、住民が感謝を込めて大芝居を催したのをきっかけに始まったと言われている。

毎年5月3日に、肥土山離宮八幡神社境内で神社祭りの奉納として半日にわたり上演される。

*歌舞伎舞台は国の重要有形民俗文化財に指定されている。



香川県土庄町



「鬼一法眼 菊畑」

〔伝統文化の継承〕

出演者は、肥土山地域に暮らす人々で交代で演じられており、住民参加で運営、継承されている。

「肥土山農村歌舞伎保存会」は、農山漁村の伝統文化を守り、継承している団体を顕彰する農林水産省の「第7回むらの伝統文化顕彰（平成19年度）」で農林水産大臣賞を受賞している。

昔は、小豆島には多くの農村歌舞伎があり、県の無形民俗文化財の指定を受けている肥土山農村歌舞伎と中山農村歌舞伎のほかに、土庄町肥土山、小豆島町中山、小豆島町歌舞伎保存会が合同により、小豆島農村歌舞伎保存会を結成し活動していた。

現在では、肥土山農村歌舞伎と中山農村歌舞伎で結成されつつも独立して活動を継続し、歌舞伎の上演が続けられている。



「一の谷 嫩軍記 熊谷陣屋」



春の歌舞伎舞台と栈敷



歌舞伎舞台全景